

タブレットを活用した革新的な運行管理による経営効率の向上

株式会社チャンピオン（山形県酒田市）

小売業 資本金4,800万円 従業員45名

会社概要

1979年創業。ホームセンター（カー用品・日用品・工具・金物・園芸用品・住宅設備器具などDIY用品を提供する小売業）を山形県内に4店舗展開している。



買物が不便な地域の住民とホームセンターの店舗をオンラインでつなぎ、店員と会話をしながら買い物ができる体制を整えつつ、山間地の住民が育てた野菜等を店舗で販売する仕組みを構築

取組の背景は？

- ・山形県は総人口の減少が続く中で、高齢者人口は増加を続け全国有数の高齢化県となっている。この中で、住み慣れた土地での生活を継続するための日常的生活支援を必要とする高齢者が増加し、買物に行くことが困難な「買物弱者」として認知されている。
- ・一方で、チャンピオンの業態である「ホームセンター」は主にDIY（＝自分でやろう）用品を提供しており、買物弱者であっても「自分で」買物が出来ること、地域の互助や介護者の介助で直接・間接的に買物が出来ることが重要と考えている。日常生活における身の回りのことを自分で出来るのであれば「自分でしたい」と考えるのは高齢者も同じであり、「買物」はその基本的な行動の一つである。
- ・高齢化社会においても、QOL（＝生活の質）向上は普遍的な考えであり、人間らしく満足して生活するための支えとなる。つまり、自社が提供する高齢者の「DIY（＝自分でやる）」実現に向けたサービスが「買物弱者」のQOL向上に寄与できると考え取り組みに至った。

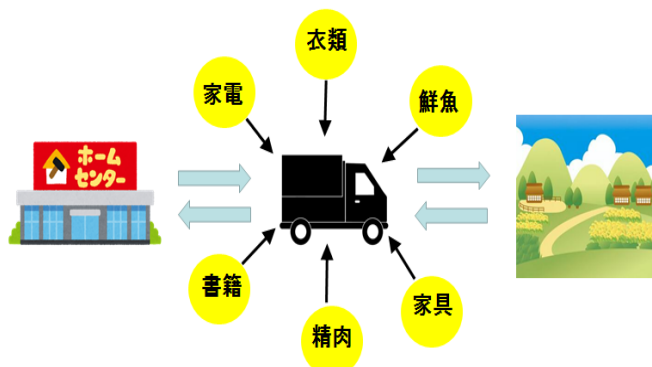
具体的な取組内容は？

・山形県内の庄内・最上地域を対象とし、ICTを活用した買物弱者への買物支援システムと商品配達の店舗商圈流通網を活用した地域共生モデル「ローカルロジスティクス」を構築。

①ユーザーと店舗をタブレット端末でつなぎ、商品の検索・選択は具体的な会話を通じて行い、決済は配達時に直接支払いに限定するなど買物弱者に優しい買い物支援システムを実現。

②買物支援システムと自社のECサイトを連携し、併せて商品配達時の流通網を活用することで地域内商店の商品や山間部農家などで採れた産直品を買取り店舗や配達先で販売する仕組みを構築。

・地域企業や住民の経済的共生と互助、そこから生まれるコミュニケーションによって高齢者の生きがいを創出することで、「誰一人取り残さない」というSDGsの考え方に根ざす取組みを実践している。



高齢者・要介護者

「自分でやりたい」
「介護されたくない」

DIYによる
自分らしさの
サポート

QOLの向上

自分の買物は
自分ができる